



2019年12月9日

日本鉄道労働組合連合会

J R 二 島 ・ 貨 物 経 営 自 立 実 現 P T 第 1 回 会 合

JRに残された最大の課題 解決へキックオフ！

12月5日、「JR二島・貨物経営自立実現PT」第1回会合を開催した。本PTは「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」第15回総会における全議員の総意のもと発足した新たなプロジェクトである。

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局長）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）を加えた3名が共同座長となることが提起・承認され、それぞれJR北海道、JR四国、JR貨物に対する課題認識を示すとともに、今後の活動に対する決意を示した。



続いて、荻山会長は「JR発足33年が経とうとしている中、JRに残された最大の課題である『JR二島・貨物の経営自立』に将来展望を開かなければならない。そのうえで、経営支援措置については単なる弥縫策にとどまらず、将来の経営自立の道を拓いていくものにしなければならない。若手の離職が相次ぐ状況もあり、働く者が希望を持てる環境を作っていくことが大事。政治・行政・地域と連携しつつ、骨太の議論を展開して、本PTがリードしていきたい」と所信を述べた。

JR連合からはプロジェクトの概要として目的や当面の取組などを確認し、国土交通省鉄道局からはJR二島・貨物会社の現状・課題等について説明を受けた。

その後、参加議員らとともに、JR二島・貨物会社の経営自立にむけた課題等について意見交換を行い、認識を共有しあった。

JR二島・貨物経営自立実現PTは、今後、JR各社をはじめ各関係者との意見交換などを通じて、経営自立にむけた実現性と実効性のある政策提言を練り上げ、将来を見据えたうえでの次なる支援実施を果たすべく、取り組みを展開していく。